

開拓情報

発行所
 公益社団法人全国開拓振興協会
 〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13
 TEL 03-3586-5843
 FAX 03-3586-5846
 ホームページ http://www.kaitakusya.or.jp
 全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会共同編集

〈今月の紙面〉

- ・〈緊急寄稿〉やはり「失うだけの日米FTA」(2面)
- ・20年度農林水産予算概算要求の重点事項(3面)
- ・秋の農作業安全確認運動スタート(4面)
- ・ホウレンソウ 土壌消毒剤の混和・ビニール被覆省略(5面)
- ・牧草地雑草「イタドリ」サイレーシ化(6面)
- ・肥育牛ふん堆肥 暗きよ管設置で発酵促進(7面)
- ・畜産物需給見通し(8面)

概算要求18・2%増、2兆7307億円

20年度農水予算 輸出、スマート農業に重点

農水省は8月30日、20年度農林水産関係予算の概算要求を決定し、財務省に提出した。総額は、今年度当初予算に比べ18・2%増の2兆7307億円となった。農林水産業の成長産業化に向けて、農林水産物・食品の輸出力強化や「スマート農業」の導入・実証の推進などに重点を置いた。消費・安全対策では、家畜伝染性疾患及び重要病害虫関係の予算を大幅に増やした。

2020年度農林水産予算概算要求の骨子 (億円、%)

| 区分 | 2020年度 要求・要望額 | 2019年度 予算額 | 前年度比 |
|----------|------------------|---------------|-------|
| 農林水産予算総額 | 27,307 | 23,108 | 118.2 |
| 公共事業費 | 8,436 | 6,966 | 121.1 |
| 一般公共事業費 | 8,240 | 6,770 | 121.7 |
| 災害復旧等事業費 | 196 | 196 | 100.0 |
| 非公共事業費 | 18,871 | 16,142 | 116.9 |

予算の内訳は、公共事業費が19年度当初予算比21・1%増の8436億円、非公共事業費が16・9%増の1兆8871億円を新規で要求した。重点事項のうち、農業関係は6つ。まず、「農林水産物・食品の政府一体となった輸出力強化と高付加価値化」を柱に掲げた。輸出先国の輸入規制

援することともに、核となる農業者と事業者とが一体となって、安定供給を実現する新たな生産モデルの構築も支援する。また、畜産・酪農の競争力強化のため、畜産・酪農経営安定対策は所要額として、6億円増の2230億円を計上した(3面に畜産・酪農関係の事業を掲載)。

2つ目の柱は「スマート農業」の実現と強い農業のための基盤づくり。スマート農業総合推進対策事業に約10倍の51億円を要求した。自動運転農機やドローン、ロボットなど最先端技術の現場への導入・実証に加えて、地域での戦略づくりなどを支援する。強い農業・担い手づくり総合支援交付金は66億円増の296億円を計上。農業用機械・施設の導入を支援することともに、核となる農業者と事業者とが一体となって、安定供給を実現する新たな生産モデルの構築も支援する。また、畜産・酪農の競争力強化のため、畜産・酪農経営安定対策は所要額として、6億円増の2230億円を計上した(3面に畜産・酪農関係の事業を掲載)。

第4次安倍再改造内閣が発足
農水大臣に江藤拓氏

大臣や衆議院農林水産委員会委員長などを歴任。昨年10月の内閣改造で首相補佐官に就任し、「ふささ」との推進及び農林水産物の輸出振興を担当してきた。

就任記者会見で、食料自給率や自給力の強化に向け、「まずは生産基盤をしっかりと確保しなければならぬ」と述べた。また、副大臣には伊東良孝氏(70歳、自民、衆・北海道7区、当選4回)と、加藤寛治氏(73歳、自民、衆・長崎2区、当選3回)が就任した。

貿易協定署名に向けて加速

日米首脳会談で一致

日米両政府は8月21日から3日間、米ワシントンで貿易協定交渉に関する関係会合を開き、農産品、工業品の主要項目について、意見の一致をみた。25日にはフランスで日米首脳会談が開かれ、関係会合の結果を確認するとともに、9月末の協定の署名を目指し、残された作業を加速させることと一致した。4月に開始された交渉の早期妥結

今年度の全国開拓青年・女性研修会は、全日本開拓者連盟・全開連・全国開拓振興協会の開拓中央三団体共催により、10月16日から18日までの3日間、青森県下で実施される。

このほど開催要領がまとまり、事務局の全日本開拓者連盟は、三団体会員宛に要領と参加申込書を送付した。100名の参加を予定している。

全国開拓青年・女性研修会開催

10月16～18日 青森県下で
 講演と現地視察

1日目は、八戸市番町「八戸グランドホテル」に集合し、講演・懇親会を行う。講師は、八戸市出身のチームフロー認定メンタルプロコーチ・津村征広氏。津村氏は、人材育成研修、学校及び部活などのコーチングで、多くのクライアーンが心のスイッチが入れる方々人生や仕事を

2日目は現地視察研修と見学。貸し切りバスなどに分乗して、上北郡東北町の北栄地区酪農施設を訪問し、視察研修する。昼食後、青森市に向かい、物産館やリンゴ園などを見学し、宿泊場所である、「ホテルルートイン青森駅前」に入る。

3日目は朝食後、自

肉免延長盛り込む 農水省20年度税制改正要望

農水省の20年度税制改正要望事項がまとまり、課税標準の特例措置の創設(固定資産税)などを要望している(3面に概要掲載)。

新規・拡充措置関係では、認定新規就業者が一定の貸し付けを受けて機械などを購入した場合の課税標準の特例措置の創設(固定資産税)などを要望している(3面に概要掲載)。

和牛遺伝資源の 管理保護室新設

農水省は8月30日、20年度組織・定員要求を発表した。和牛遺伝資源の流通管理の適正化や保護の強化を図るため、「家畜遺伝資源管理保護室(仮称)」を設置することにも、優良な植物品種の

海外流出防止のための体制を強化する。農林水産物・食品のさらなる輸出拡大に向けて、輸出先国の規制への対応を強化するため、農林水産大臣を本部長とする司令塔組織として、「農林水産物・食品輸出促進本部(仮称)」を設置する。さらに、「海外輸入規制対策課」(同)も設ける。

本紙は無償で提供しています。
 ご希望の方はお知らせ下さい。

(緊急寄稿)

やはり「失うだけの日米FTA」

東京大学教授 鈴木宜弘氏

▽「TPP水準」を意図的に強調する姑息

日米FTA交渉をめぐって、多くの報道で農産物の開放を「TPP水準にとどめた」かのように強調されているが、これは間違いである。

①そもそも、TPP水準が大問題だったのだから、TPP水準にとどめたからよかつたかのような報道が根本的におかしい。

②加えて、米中貿易戦争の「尻拭い」役として、トウモロコシなどの大規模な追加輸入の約束がセットで行われたのだから、これは明らかに「TPP超え」だ。

「すでに8月初旬に政府は前倒し輸入を決めたのだから、食害対策が先にあった」という指摘があるが、5月末の東京での日米首脳会談の後、トランプ大統領が「日本との貿易交渉で大きな進展があった。農産品と牛肉は大変な影響がある。7月の選挙の後、大きな数字を期待している」とツイートし、加えて、記者会見でも「おそらく8月に西国にとって素晴らしいことが発表されると思う」と発言し、「TPPなんか関係ない」と言い放つたことを思い返せば、5月の時点で穀物輸入が決まっていたと考えるのが自然である。

また、食害が懸念されている日本の飼料用トウモロコシは葉や茎を青刈りして発酵させる粗飼料であるが、米国から輸入しているのは濃厚飼料となるトウモロコシの実(粒)で「別物」である。

形にしてモノは直接別の国に米国から送る(、パイオエタノールをつくる)とかが考えられる。

さらに、注意すべきは、米国の中国向け農産物ではバランスが必要で、完全には代替できない。国産のコメをトウモロコシに代わる飼料にしようとするには、トウモロコシ供給も緩和して、シカゴ相場が暴落している。米農家は大豆とトウモロコシと小麦を輪作している。日本のトウモロコシ買付けで相場が上昇すれば、穀物農家は助かる。日本の畜産農家にとっては飼料コストアップの不利益を被ることになる。

要は、「追加輸入ありきで理由は後付け」の感が強い。残念ながら、日本は、米国(大統領)の「忠実な手下」(ワシントンポスト紙)として、「親分」の後始末をする「廃棄場」(dumping ground)になったと言われても反論しづらい。

処理方法としては、3国間貿易(日本が買った粗飼料と濃厚飼料の給与にはバランスが必要で、完全には代替できない。国産のコメをトウモロコシに代わる飼料にしようとするには、トウモロコシ供給も緩和して、シカゴ相場が暴落している。米農家は大豆とトウモロコシと小麦を輪作している。日本のトウモロコシ買付けで相場が上昇すれば、穀物農家は助かる。日本の畜産農家にとっては飼料コストアップの不利益を被ることになる。

粗飼料と濃厚飼料の給与にはバランスが必要で、完全には代替できない。国産のコメをトウモロコシに代わる飼料にしようとするには、トウモロコシ供給も緩和して、シカゴ相場が暴落している。米農家は大豆とトウモロコシと小麦を輪作している。日本のトウモロコシ買付けで相場が上昇すれば、穀物農家は助かる。日本の畜産農家にとっては飼料コストアップの不利益を被ることになる。

要は、「追加輸入ありきで理由は後付け」の感が強い。残念ながら、日本は、米国(大統領)の「忠実な手下」(ワシントンポスト紙)として、「親分」の後始末をする「廃棄場」(dumping ground)になったと言われても反論しづらい。

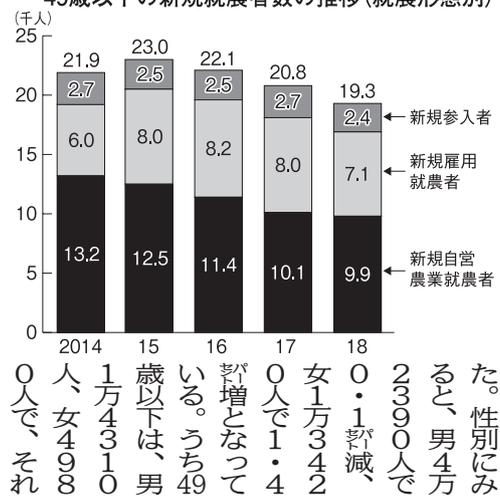
処理方法としては、3国間貿易(日本が買った粗飼料と濃厚飼料の給与にはバランスが必要で、完全には代替できない。国産のコメをトウモロコシに代わる飼料にしようとするには、トウモロコシ供給も緩和して、シカゴ相場が暴落している。米農家は大豆とトウモロコシと小麦を輪作している。日本のトウモロコシ買付けで相場が上昇すれば、穀物農家は助かる。日本の畜産農家にとっては飼料コストアップの不利益を被ることになる。

49歳以下は2万人割る

18年 新規就農2年連続5万人台

農水省は8月9日、18年新規就農者調査(19年2月1日現在)の結果を発表した。新規就農者は5万5810人で、前年比0.3割増と前年並みだった。このうち、49歳以下は1万9290人で、前年比2.7割低下した。16年から減少傾向となり、5年連続で2万人を割り込んだ。新規就農者は2年連続で5万人台にとどまった。性別にみると、男4万2390人で、2.2割減少した。新規学卒就農者は11040人で、うち49歳以下は2360人で、12.9割減少した。

農水省は8月9日、18年新規就農者調査(19年2月1日現在)の結果を発表した。新規就農者は5万5810人で、前年比0.3割増と前年並みだった。このうち、49歳以下は1万9290人で、前年比2.7割低下した。16年から減少傾向となり、5年連続で2万人を割り込んだ。新規就農者は2年連続で5万人台にとどまった。性別にみると、男4万2390人で、2.2割減少した。新規学卒就農者は11040人で、うち49歳以下は2360人で、12.9割減少した。



新規学卒就農者は11040人で、うち49歳以下は2360人で、12.9割減少した。農水省は8月9日、18年新規就農者調査(19年2月1日現在)の結果を発表した。新規就農者は5万5810人で、前年比0.3割増と前年並みだった。このうち、49歳以下は1万9290人で、前年比2.7割低下した。16年から減少傾向となり、5年連続で2万人を割り込んだ。新規就農者は2年連続で5万人台にとどまった。性別にみると、男4万2390人で、2.2割減少した。新規学卒就農者は11040人で、うち49歳以下は2360人で、12.9割減少した。

生乳流通業者からヒアリング 今牧場(株)の取り組みも

農水省は8月21日、都原今牧場(今耕一・代表取締役)のチーズ工房の取り組みが発表された。同牧場の加工部門責任者である高橋雄幸氏が意図を述べた。現在、経産省の近代化を図るため、酪農(酪肉近)の策定に向けて、関係者から意見を聞いている。牛・山羊チーズの製造・販売を行っている。山羊チーズは、高橋氏に製造

農水省は8月21日、都原今牧場(今耕一・代表取締役)のチーズ工房の取り組みが発表された。同牧場の加工部門責任者である高橋雄幸氏が意図を述べた。現在、経産省の近代化を図るため、酪農(酪肉近)の策定に向けて、関係者から意見を聞いている。牛・山羊チーズの製造・販売を行っている。山羊チーズは、高橋氏に製造

農水省は8月21日、都原今牧場(今耕一・代表取締役)のチーズ工房の取り組みが発表された。同牧場の加工部門責任者である高橋雄幸氏が意図を述べた。現在、経産省の近代化を図るため、酪農(酪肉近)の策定に向けて、関係者から意見を聞いている。牛・山羊チーズの製造・販売を行っている。山羊チーズは、高橋氏に製造

山口県農林総合技術センター

ハウレンソウ 土壌消毒剤の混和・ビニル被覆省略 簡易処理でコナダニに防除効果

難防除害虫「ハウレンソウケナガコナダニ」は土中に生息する0.4mm程度の小さい虫で、施設ハウレンソウで新芽を食害するが、確認が困難で気づかぬうちに被害が拡大していることも多い。

山口県農林総合技術センターは、同虫防除において、低コスト・省力的な簡易処理を考案した。土壌消毒剤「カーバマナトリウム塩液剤(以下、同剤)」を散布した直後の土壌混和とビニール被覆を省略するというもの。2つの試験で効果を確認した。

試験1

16年9～11月に県内農家ほ場で試験を行い、同剤散布時の混和とビニール被覆を省略した場合の被害抑制効果を調査した。

同剤40L/10a及び60L/10aを、それぞれ前作終了後に所定量の3倍に希釈し、土壌表面散布した2区を設定。2区とも、散布後にハウスサイドを閉めて4日間密閉し、3日間開放した後、通常通り耕耘して播種した。

対照として、2葉期と4葉期にフルフェノクスロン乳剤4000倍液を300L/10a散布した区及び無処理区を設定し、被害抑制効果を比べた。

その結果、同剤を散布した2区とも、対照の2区と比べ被害度は低く抑えられた。8葉期の同虫密度は無処理区よりも有意に少なく、処理量の違いによる効果は同等であった。

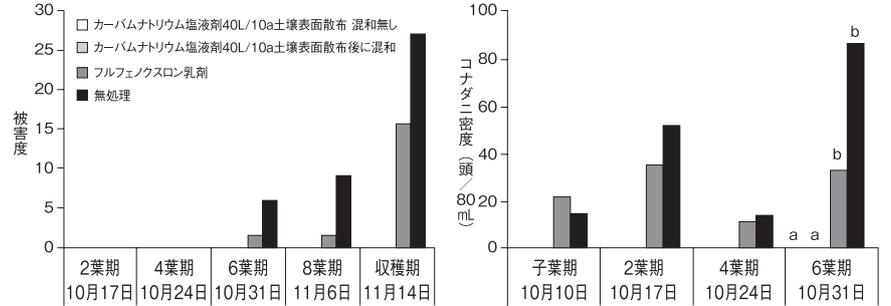
試験2

17年9～11月に県内農家ほ場で試験を行った。同剤の散布量を40L/10aとして、試験1で省略した散布時の混和の有無による効果の違いを調べた。

試験1と同様の管理で、前作終了後、同剤散布時の混和無し・混和有りとした2区を設定。対照には、試験1と同様の2区を設けた。

その結果、2区とも6葉期の同虫密度はほぼ0で推移し、対照の2区に比べ有意に少なく、散布時の混和の有無による効果は同等だった(図)。専用散布器で散布しながら混和する場合でも利用できることが示された。

図 カーバマナトリウム塩液剤散布後の土壌混和の有無がハウレンソウの被害度(左)とコナダニ密度(右)に与える影響



*被害度 各区50株での被害度 A:被害なしの株数、B:コナダニによる奇形葉2枚以内の株数、C:奇形葉3～4枚で褐変なしの株数、D:奇形葉の数に関わらず中心部が褐変し芯止まりの株数を調査し、以下の式に当てはめた。
被害度=(D×5+C×3+B×0.5+A×0)÷調査株数×5)×100
*コナダニ密度 1区当たりの土壌表面の深さ0～3cmの土壌80mLを採取し、当日中にツルグレン装置に設置し、24時間後に抽出されたコナダニ成虫・若虫・幼虫の合計数を顕微鏡下で計数した。
*2017年 周南市鹿野ハウレンソウハウスで実施。カーバマナトリウム塩液剤40L/10a土壌表面散布区混和無しは1区16m×5m=80㎡の1連3ヵ所調査、同剤40L/10a土壌表面散布後に混和は1区6m×5m=30㎡の1連3ヵ所調査、フルフェノクスロン乳剤区と無処理区は1区2m×2m=4㎡の3連試験。
*異なるアルファベット小文字は、統計的に同じでないことを示す。

まとめ

2試験の結果から、以下の簡易処理を行うと高い防除効果が得られる。

- ①同虫は、土中に混和された藻類を増殖源とするため、前作終了後に土壌を混和しない。②少しかん水した後、同剤40L/10aを短時間で全体に均等に撒ける倍率で散布。③ビニール被覆を行わず、ハウスサイドを閉める。④3～4日後にサイドを解放し、3日程度おく。⑤通常通り耕耘して播種する。

18年に行った調査により、従来の土壌消毒法と比較して、作業時間は8分の1以下、費用は半分以下になることが分かった(表)。

| 作業内容 | 従来の方法 | 簡易処理方法 |
|--------|-----------------|-----------------|
| 薬剤散布 | 32分×1人= 32分 | 32分×1人= 32分 |
| 土壌混和 | 21分×1人= 21分 | — |
| ビニール被覆 | 38分×3人=114分 | — |
| サイド密閉 | 1分×1人= 1分 | 1分×1人= 1分 |
| サイド開放 | 1分×1人= 1分 | 1分×1人= 1分 |
| ビニール除去 | 42分×3人=126分 | — |
| 労働時間合計 | 295分 | 34分 |
| 労賃 | 5時間×802円=4,010円 | 0.5時間×802円=401円 |
| 薬剤費 | 9L×600円=5,400円 | 6L×600円=3,600円 |
| 経費合計 | 9,410円 | 4,001円 |

2018年10月12日 周南市鹿野ハウレンソウハウスで測定。開口5m×長さ30mハウス(150㎡)当たり
図は山口県農林総合技術センターの資料を一部改変、表は同センター資料より

同センターは注意点として、簡易処理による同剤の使用時期は、播種7日前までであることを挙げている。また、「ハウレンソウケナガコナダニ」を対象とした方法であり、雑草には通常処理と同等の効果があるものの、他の病害に対しての効果は散布時期が異なるため期待できないとしている。

秋冬野菜収穫量4%増 2年連続300万t割れ

農水省はこのほど、「18年産指定野菜(秋冬野菜等)及び指定野菜に準ずる野菜の作付面積、収穫量及び出荷量」を公表した。秋冬野菜全体の収穫量は、14年産以来の増加となったが、前年産に続き300万tを割っている。

秋冬野菜

全体の作付面積は、前年産より1200ha(1%)減の9万2800ha。一方、収穫量は12万7000t(4%)増の296万

9000t、出荷量は約11万9000t(5%)増の240万9000tとなった。10a当たり収量は全品目で前年産を上回り、収穫量も秋冬サトイモ以外の品目で増加した。作付面積が伸びたのは冬レタスのみだった。

収穫量が大きく伸びた品目をみると、秋植えバレイショが14%増、冬レタスが13%増、冬ニンジンが8%増となっている。

条件満たした堆肥の利用を 農水省の野菜衛生管理指針

農水省はこのほど、「試行版・野菜の衛生管理指針」をとりまとめた。今後、現場からの意見を基にして、来年度を目処に確定版として改訂する予定としている。

同指針は、食中毒の発生を防ぐために栽培から出荷までの衛生上の注意点をまとめたもので、11年に策定された。試行版では、家畜ふん堆肥の製造や使用上の管理点などを新たに盛り込んだ。最新の研究で明らかとなった「原料ふん中の有害微生物を死滅させるのに必要な条件」などを具体化している。

野菜生産者は、次の①～④の管理が確認できない堆肥を利用する場合、施用～収穫までの期間を、土壌から離れた野菜は2ヵ月、土壌に近い野菜では4ヵ月空ける必要がある。

- ①副資材の利用等による水分調整や定期的な切返し(目安:1ヵ月ごと1回、計3回以上)などによる通気をして、十分発酵させる。②堆積物(目安:堆積2週間後)の内部温度を測定し、55℃以上が3日間以上続いていることを確認する。③堆肥の色が褐色から黒褐色になり、原料の家畜ふんの臭いがほぼなくなったことを確認する。④できあがった堆肥が、原料や製造途中の堆肥に触れないようにする。

これらの品目で

は、いずれも10a当たり収量が1割以上増えている。その要因として、秋植えバレイショは天候に恵まれ肥大が良好だったため。冬レタスと冬ニンジンでは、台風などにより作柄の悪かった前年産に比べ、天候に恵まれて生育が良好だったためとみている。

ハウレンソウ

作付面積は、200ha(1%)減の2万300haで、10a当たり収量は10kg(1%)増加し1120kgと、大きな変化はなかった。そのため、収穫量は前年産並みの22万8300tとなった。

指定野菜に準ずる野菜

全体の作付面積は、1300ha(1%)減の15万700haと減少が続いた。収穫

| 区分 | 作付面積 (ha) | | 収穫量 (t) | | 出荷量 (t) | |
|--------|-----------|--------|---------|-----------|---------|-----------|
| | 増減率 (%) | | 増減率 (%) | | 増減率 (%) | |
| 14年産 | ▲0.1 | 96,800 | ▲1.6 | 3,178,000 | ▲2.1 | 2,533,000 |
| 15 | ▲0.7 | 96,100 | ▲1.2 | 3,139,000 | ▲0.7 | 2,515,000 |
| 16 | ▲1.6 | 94,600 | ▲3.8 | 3,021,000 | ▲3.7 | 2,422,000 |
| 17 | ▲0.6 | 94,000 | ▲5.9 | 2,842,000 | ▲5.5 | 2,290,000 |
| 18(概数) | ▲1.3 | 92,800 | ▲4.5 | 2,969,000 | ▲5.2 | 2,409,000 |

| 区分 | 作付面積 (ha) | | 収穫量 (t) | | 出荷量 (t) | |
|--------|-----------|---------|---------|-----------|---------|-----------|
| | 増減率 (%) | | 増減率 (%) | | 増減率 (%) | |
| 14年産 | ▲0.9 | 155,700 | ▲0.3 | 2,418,000 | ▲0.5 | 2,039,000 |
| 15 | ▲0.6 | 154,700 | ▲1.6 | 2,380,000 | ▲1.5 | 2,008,000 |
| 16 | ▲0.5 | 153,900 | ▲4.3 | 2,278,000 | ▲4.5 | 1,917,000 |
| 17 | ▲1.2 | 152,000 | ▲1.8 | 2,320,000 | ▲2.6 | 1,967,000 |
| 18(概数) | ▲0.9 | 150,700 | ▲3.7 | 2,235,000 | ▲3.4 | 1,901,000 |

▲はマイナス。農水省の資料を基に作成

量は8万5000t(4%)減の223万5000t、出荷量は6万6000t(3%)減の190万1000tとなった。

収穫量が伸びたのは27品目中4品目と少ない。最も増加したブロッコリーでは、6%増となっている。

最も減少したのは、カボチャで21%減だった。北海道において6月中旬～7月上旬の日照不足や7月下旬からの高温少雨が影響し、10a当たり収量は大幅に減少した。

18年産キウイフルーツ 収穫量17%減

農水省はこのほど、「18年産キウイフルーツの結果樹面積、収穫量及び出荷量」を公表した。天候不順などで収量、収穫量、出荷量が大きく減少した。

結果樹面積は、17年産に比べ50ha(2%)減少して1950haとなった。10a当たり収量は、220kg(15%)下回る

1280kg。収量低下の要因は、7月中旬以降の高温・少雨の影響で果実肥大が抑制されて小玉傾向となったこと、台風による落果・傷果などが発生したこととしている。

収穫量は5000t(17%)減の2万5000t、出荷量は4400t(17%)減の2万1800tと、大きく伸びた17年産から一転して、どちらも2割近く減少し16年産並となった。

青森県産業技術センター畜産研究所

牧草地雑草「イタドリ」サイレージ化
混合給与で飼料として利用可

牧草地では、強害雑草の繁茂が問題となる。混入割合が高いと、意図した飼料成分にならない可能性がある。

(地独) 青森県産業技術センター畜産研究所は、牧草地で発生する強害雑草「イタドリ」をサイレージ化して飼料成分や嗜好性を調査した結果、乳牛の高タンパク質飼料として利用できることを明らかにした。

ほ場調査を行ったところ、牧草地に侵入したイタドリは5月上旬から急速に成長し、5月下旬にはオーチャードグラス(OG)早生品種の草丈80cm・乾物収量367kg/10a(同研究所作況試験5月25日刈り平年値)を上回った(表1)。

粗タンパク質(CP)含有率は成長にともない低下するものの、乾物収量

は増加していくので、CP収量は5月中旬を過ぎても増える。収穫時のCP含有率は1番草、再生草ともにOG出穂期(日本標準飼料成分表09年版)を上回る。

1番草の繊維成分は、成長にともない上昇するものの、収穫時には酸性デタージェント繊維(ADF)・中性デタージェント繊維(NDF)とともにOG1番草出穂期を下回り、2番草でも同様に下回る。

一方、イタドリに含まれるシュウ酸は、2%以上の含有率で中毒を引き起こす可能性があるとされている。1番草、2番草ともに2%を上回るが、牧草や配合飼料との混合給与であれば問題にならない含有率である。

牧草地からイタドリ1番草のみを採

表1 採草地におけるイタドリの収量、飼料成分等の推移(16~17年 青森畜産研)

Table with 10 columns: 調査年度, 番草, 調査日, 草丈(cm), 乾物収量(kg/10a), CP, CP収量(kg/10a), ADF, NDF, シュウ酸. Rows show data for 2016 and 2017 across different grass types and dates.

注1 - は非調査 2 CP:粗タンパク質、ADF:酸性デタージェント繊維、NDF:中性デタージェント繊維

表2 イタドリと他飼料との嗜好性比較(17年 青森畜産研)

Table with 5 columns: 調査日, 牛個体, CS, AL, JKS. Rows show preference scores for 1, 2, and 3 days of investigation across different cow groups.

注1 数値は3種類の飼料の摂取順位 2 CS:トウモロコシサイレージ、AL:アルファルファペレット、JKS:イタドリサイレージ 表1、2ともに青森県産業技術センター畜産研究所の資料より

取しミニサイロで調製したサイレージを、フィステル装着牛の第一胃に投入。投入後48時間まではほぼ直線的に消化され、消化率は90%を超えた。

また、サイレージのVスコアは93.56と高い発酵品質を示した。乳用牛3頭に対して3日間、嗜好試験を行ったと

ころ、トウモロコシサイレージ及びアルファルファペレットよりも先に摂取する牛が多いことから、嗜好性は高いと判断された(表2)。

以上により、牧草地に発生するイタドリは防除の必要がなく、牧草とともに収穫・調製することでサイレージとしての利用が期待できることが分かった。イタドリ混合割合が高ければ、収穫草は高タンパク質・高消化性飼料となる。

同センターは留意点として、収穫草はロールペールごとにイタドリ混合割合が異なるため、精密な飼料設計が必要な牛には給与しないこと、サイレージ調製作業における脱葉などのロスの程度は不明であることを挙げている。

新潟県農業総合研究所畜産研究センター

2産以降の繁殖雌豚 アミノ酸添加玄米の省力的給与
配合3分の1代替で成績維持し費用減

表1 子豚の発育成績(各飼料平均)

Table with 4 columns: 項目\給与飼料, 単位, 配合飼料のみ, アミノ酸添加米, 米. Rows include metrics like 哺乳日数, 離乳率, etc.

注1 配合飼料のみ:授乳期用配合飼料のみを給与、アミノ酸添加米:授乳期用配合飼料の3分の1をアミノ酸添加米に置き換えて給与、米:授乳期用配合飼料の3分の1を米に置き換えて給与 注2 各飼料、繁殖雌豚7頭の平均値 注3 同一行の異符号間に有意差あり(a, b, c: P<0.05)

表2 分娩1回当たりの飼料費

Table with 4 columns: 項目\給与飼料, 単位, 配合飼料のみ, アミノ酸添加米, 米. Rows include うち配合飼料, うち飼料用米, etc.

注 配合飼料は63円/kg、アミノ酸添加米は35.1円/kg、米は30円/kgで試算 表1、2ともに新潟県農業総合研究所畜産研究センターの資料を一部改変

養豚では、飼料費がコストの多くを占める。国産の飼料用米はコスト削減に有効だが、利用には混合機などの導入や混合作業の労力が必要となる。

新潟県農業総合研究所畜産研究センターは、給与試験を行い、授乳中の繁殖雌豚への低コストで省力的な飼料用玄米給与方法を提案した。

同センターは、配合飼料と比べて飼料用玄米に不足する成分を補完するため、破碎処理(4つ割り)した玄米に3種類のアミノ酸を添加。玄米100kgに対し、リジン0.6kg、トレオニン0.3kg、第二リン酸カルシウムを1kgずつ添加して混合したものを「アミノ酸添加米」とした。

給与試験には、2~3産の繁殖雌豚を供試。試験区(各7頭)として、授乳期用配合飼料のみを給与する区、同配合飼料の3分の1をアミノ酸添加米

で混ぜ置き換える区、同配合飼料の3分の1を玄米のみで混ぜ置き換える区を設定した。各飼料を分娩予定の1週間前から離乳までに給与し、繁殖成績を調査した。

試験の結果、アミノ酸添加米で置き換えた区の子豚の発育成績(表1)、繁殖

雌豚の体重の増減、離乳後の発情回帰日数は、配合飼料のみの給与と変わらなかった。一方、玄米のみで置き換えた区では、子豚の離乳時一腹増体重が他2区よりも低下した。

分娩1回当たりの飼料費を試算すると、アミノ酸添加米で約1800円削減できる(表2)。

以上により、アミノ酸添加米で配合飼料の3分の1を置き換えると、繁殖成績を維持したまま飼料コストの削減効果が見込めることが分かった。また、配合飼料との混合をする手間がないため省力的である。

留意点として、初産の繁殖雌豚と同様に代替給与を行うと、アミノ酸添加米・玄米いずれも子豚の発育成績が低下する。2~3産でも、割合を3分の1以上とすると他の栄養成分が不足し、繁殖成績が低下する可能性がある。

乳用牛群検定全国協議会はこのほど、リーフレット「〈新〉周産期病の予兆は牛群検定から素早くキャッチ！」を公表した。5年前に発行したリーフレットの内容を改訂したもの。

新たに、分娩後60日までの乳成分がその後の繁殖成績などに与える影響を、過去3年の牛群検定成績104万頭のデータを用いて解析した。

例えば、分娩後60日以内の乳脂率が

5%以上だと、5%未満と比べて不受胎の比率が5.4%、次産との分娩間隔が6日間増えている。さらに、体脂肪分解による肝臓の負担が大きいため、淘汰される比率は5.4%高い。

同様に、検定成績表の乳タンパク質率やP/F比などの値による傾向の違いが示されている。

リーフレットは、同協議会のホームページからみることができる。

養豚排水のBOD測定迅速化
農研機構など、新システム開発

農研機構畜産研究部門などの研究グループはこのほど、「発電細菌」の利用による新たな水質監視システムを開発した。同システムを用いれば、養豚排水の水質測定時間の大幅な短縮につながり、浄化性能の向上や電力の省エネが期待される。

水の汚れの指標としては、BOD(生物化学的酸素要求量)が用いられ、値が低いほど清浄な水とされている。しかし、現行の測定法では、結果を得るまでに5日間かかるため、水質の変化に対応した運転制御は難しい。

同システムには、酸素がない環境で有機物を分解する際に電気を発生する性質をもつ「発電細菌」を用いたセン



農研機構の資料より

サーが組み込まれている。排水中のBOD値と菌が発生する電流の間に相関があることを利用。測定結果は6時間で得られ、現行法よりも大幅に短縮できる。

また、自動測定できるため、作業員が取水するなどの手間は不要。IoT機能により水質データはWebサーバーに保管され、PCや手持ちのスマートフォンでいつでも確認できる(図)。一定の値を超えた場合などに知らせる機能も備える。測定したBOD値に応じて、無駄な曝気時間を減らすなど、効率的な運転ができると期待される。

研究グループは、農研機構の他、山形、千葉、熊本、宮崎、沖縄の公設試験研究機関と民間企業3社で構成。来年度中に、同システムの販売開始を予定している。

水質汚濁防止法による畜産の暫定排水基準は、この7月に硝酸性窒素等が500mg/Lへ引き下げられたばかり。今後も厳格化される可能性があるため、排水処理施設の能力向上が望まれる。

佐賀県畜産試験場

肥育牛ふん堆肥 暗きょ管設置で発酵促進 安価で作業効率向上

肥育牛のふん尿を良質な堆肥にするには、発酵の促進と水分の低下が重要となる。通気装置の無い無通気型の堆肥舎では、ローダーなどによる切り返しに時間や労力がかかるため、簡易に発酵を促進できる技術が必要とされている。

佐賀県畜産試験場は、市販のポリエチレン製全面開孔型暗きょ管（以下、ネトロンパイプ）をふん堆肥に縦方向に埋め込む試験を行い、自然通気で発酵を促進する方法を考案した。

試験方法

ネトロンパイプを設置する「試験区」と、設置しない「対照区」の2区を設けた。期間は、両区とも1次堆肥化期間の8週間（2週間ごとに切り返し）、2次発酵期間の9週間（切り返しもパイプによる通気も行わない）の合計17週間とした。敷料におが粉を使用した

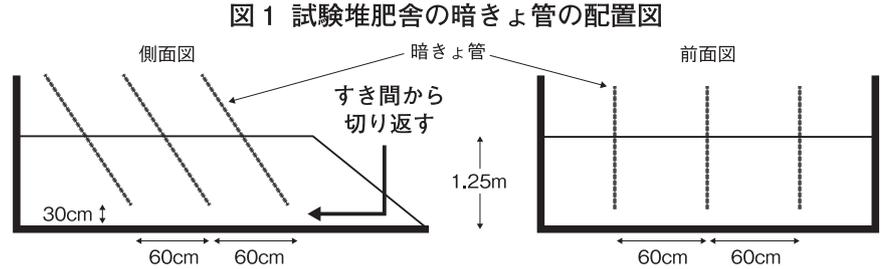
同試験場の肥育牛ふんを供試した。

試験区は、牛舎から運び出し1.25mの高さに積んだふん堆肥に、縦方向（上から）に60cm間隔で9本のネトロンパイプ（1600円/4mのものを半分にカットして使用した）を埋め込む（図1）。垂直に立てるのは困難なため、45～60度の角度で埋設した。また、ローダーでの切り返し時に撤去を行うため、地面から30cm離して埋め込んだ。

切り返し時の作業性を調査し、堆肥中の水分、有機物などを測定した。堆肥中の温度は、表層部（深さ40cm）と深部（同80cm）を堆肥用温度センサーで60分ごとに測定した。

試験結果

切り返し時のパイプの撤去・再埋設のためローダー操縦者以外にもう1人の作業者が必要となるが、底面とのすき間があることで切り返し時にパイプ



が破損することなく、作業は容易にできた。留意点として、試験区は1次堆肥化期間で水分が低下し過ぎて有機物の分解がなくなつたため、その後は加水して堆肥化する必要があるとしている。

堆肥の成分をみると、水分値は試験区で52%（開始時）→35%（8週目）→27%（17週目）、対照区で50%（開始時）→44%（8週目）→36%（17週目）にそれぞれ低下した（図2）。17週目には、試験区の方が9%水分含量を低く抑えられた。pHは、試験区・対照区に大きな差がなかった。

堆肥温度の推移は、試験区で2週目まで上昇が大きかった。8週目の物質収支では、重量比は、試験区で64.7%と対照区よりも21.6%重量が減少し、終了時にはそれぞれ54.0%、56.0%で

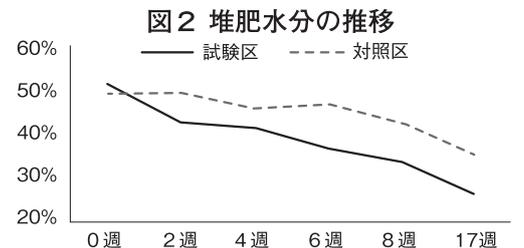


図1は佐賀県畜産試験場資料を一部改変、図2は同試験場資料より

同等だった。8週目の水分蒸散率は試験区が60.6%、対照区が38.1%、有機物分解率はそれぞれ23.3%、20.0%で、試験区が高くなった。

以上のことから、ネトロンパイプの埋設は、1次堆肥化期間での堆肥の発酵の促進効果が認められた。また、パイプの上面は堆肥で目詰まりするが、側面・底面にはみられなかった。高圧洗浄機で容易に洗浄でき、曲がった部分は人力で真っすぐに直せるため、再利用が可能であるとしている。

女性が積極的に情報収集を

全国畜産縦断いきいきネットワーク大会

畜産・酪農に携わる女性たちが連携して設立した「全国畜産縦断いきいきネットワーク」の19年度大会が8月22日、都内で開催された。

今年のテーマは「女（ひと）と男（ひと）ですすむ経営参画～ともに歩み出そう、新しい時代へ」。生産者・関係者など計159名が参加した。基調講演の他、パネルディスカッション、恒例の1分間スピーチなどが行われ、活発な意見発信と情報交換で賑わった。

冒頭、小林陽子会長（三重・養豚）は、「時代が変わっても、農は国の基、食は命。消費者に安心安全な畜産物を届ける農家でありたい。今も畜産は厳しい状況。不安な時こそ、ともに活動する仲間が存在を心強く感じる」と連帯の強化を促した。

パネルディスカッションでは、現場からみえる女性の経営参加のために必要なことやメリットなどが話し合われた。柴田輝雄氏（秋田・酪農）は、「男性が女性を積極的に外に出す、むしろ出てもらうべき。自分の妻は積極的に地域の仲間と集まり、経営や飼養管理などで自分も知らなかった情報を得て、帰ってきてくれる」と語った。

また、畜舎の火事を経験したメンバーが、似た状況を経験したネットワークの仲間に教えてもらった方法で、復旧費用を一桁以上安く抑えることがで

きた経験を語り、外に出て女性が情報収集をする意義を改めて強調した。質問者の問いかけには、家族協定の締結がより進む仕組みを考えてほしい、という提案も出された。

加藤美子氏（三重・和牛一貫経営）からは、「昔は忙しくて来られなかったが、仲間が諦めず誘い続けてくれた。何度か断られても、根気よく声をかけ続けることが大切」と、女性が外に出

やすい環境づくりのコツを、実体験を交えて語った。他の登壇者たちや質問者の発言から、「お茶会など小さな会からでも積極的に集まる」・「地域のリーダー格になれる人が情報交換の場に連れ出す」・「農水省などが表彰や通達で積極的に集結を促すことが大切」とまとめた。

恒例の1分間スピーチでは、今年は豚コレラで参加できなかった仲間に言及する参加者が複数おり、「口蹄疫の時に苦労したメンバーの経験も合わせて、家畜を殺処分することが無いよう、畜種を超えて防疫対策に力を入れていこう」と呼びかけた。先崎幸江氏（福



島・和牛肥育）は、「震災の時、ネットワークの人たちが支えてくれた。その助け合いをきっかけに、家族も行ってこいと毎年送り出してくれる。こうした助け合いの輪は大切だ」と語った。

最後に、田中真紀子氏（神奈川・酪農）の朗読による大会宣言が採択され、閉会した。

ナルトサワギク中毒の対策 牛の誤食に注意

近年、日本全体の高温化により全国的にナルトサワギクの発生が確認されている。特に、本州中部から九州にかけて問題になっているため、形状・特徴を覚え、発見次第駆除することが重要となる。

マダガスカル原産の特定外来植物で、元々は温暖な地域のみで確認されていた。

繁殖力が非常に強く、どこにでも生える。タンポポに似た綿毛を風で飛ばし、1年中増殖する。アルカロイド系の毒があり、放牧地などで牛が誤って食べると中毒症状を起こす。嘔吐・下痢・肝障害などの被害が出る恐れもある。

○見た目の特徴

花の直径は1円玉程度の大きさ。花は黄色で、花びらにはギザギザはなく、平坦な形をしている（写真）。花も葉も小ぶりだが、高さは50cm以上になる。また、地際で枝分かれし広がっている。花の枝が何度も枝分かれしており、葉の側面には小さなトゲが並んでいるが、変異の多い植物のため、様々な形の葉が存在する。また、葉の根元が茎に巻き付いているのが特徴。

○対策方法

最も有効な対策は、根ごと抜き取る。根は比較的浅く、抜き取りやすい。手やスコップで抜き取る。素手で触っても害はないが、人体への影響があるため、植物体の汁に触れないよう、軍手・長袖を着用する。地際で刈り取る手法も考えられるが、広範囲に繁殖している場合を除き、人手による抜き

ナルトサワギクの特徴



千葉県生物多様性センター資料より作成

取りが望ましい。また、未開花状態のものも混在していることが多いので、花が咲いていなくても抜き取る。

植物体（種子含む）の移動は法律で禁止されているため、その場で袋に詰め、引き抜いた場所付近で2～3日天日にさらして枯死させる。枯死後は、燃えるゴミとして処分できる。刈り取っても枯れていない限り毒性があるので、飼料などへの混入を避けるため、野積みは避ける。

畜産物需給見通し

牛枝肉

節約志向で、乳牛去勢・交雑種はもちあいか

長梅雨明けから全国的に気温が上昇し、8月は猛暑となった。消費の盛り上がりには欠け、相場はやや弱含みで推移した。10月からの消費税増税にともなう出費増の影響により、牛肉の買い控えが懸念される。

【乳去勢】8月の東京市場乳牛去勢B2の税込み平均枝肉単価(速報値、以下同じ)は1020円(前年同月比98%)となり、前月に比べ4円上げた。

農畜産業振興機構の需給予測によると、9月の乳用種の全国出荷頭数を前年並みの2万7400頭(100%)と見込んでいる。9月の輸入量総量は5万1900t(99%)と予測。うち冷蔵品は、前年、台風による倉庫の浸水被害などで同月の輸入量が少なかったことから、かなり上回る2万2300t(107%)、冷凍品は現在の在庫量が高水準であることから、下回る2万9600t(94%)としている。

【F₁去勢】8月の東京市場の交雑種(F₁)去勢税込み平均枝肉単価は、B3が1677円(前年同月比109%)、B2は1544円(114%)となった。前月に比べ、それぞれ41円、27円上げた。

同機構は、9月の交雑種の全国出荷頭数を1万9000頭(99%)と、引き続き前年を下回ると予測している。

【和去勢】8月の東京市場の和牛去勢税込み平均枝肉単価は、A4が2375

円(前年同月比97%)、A3は2173円(99%)となった。前月に比べ、それぞれ25円、15円下げた。出荷頭数の増加などから、前月に比べやや弱含みで推移した。

消費者 低価格志向強

同機構は、9月の和牛の全国出荷頭数を3万7100頭(110%)と、引き続き前年をかなり上回ると予測している。全品種の出荷頭数は、8万5000頭(104%)と見込んでいる。

消費税増税がスタートする。消費者の低価格志向、節約志向が一層強まることと予想される。また、外食は軽減税率の対象外のため、影響が大きいとみられる。

需要の端境期に入り、全体的に荷動きが鈍くなる。今年、消費者の出費の切り詰めが加わる。高値の和牛は、出荷頭数が増えていることもあり、上位等級が弱含む一方、3等級は堅調な展開となるか。乳牛去勢、交雑種は出荷頭数が少ないことと値ごろ感から、大きな下げはなく、もちあいの推移が予想される。

向こう1ヵ月の東京市場の税込み平均枝肉単価は、乳牛去勢B2が1000~1050円、F₁去勢B3が1600~1650円、B2は1500~1550円、和牛去勢A4が2300~2400円、A3は2150~2250円での相場展開か。

8月の子牛取引状況

(頭、kg、円)

| ブロック | 品種 | 頭数 | | 重量 | | 1頭当たり金額 | | 円/kg | |
|-------|------------------|--------|--------|-----|-----|---------|---------|-------|-------|
| | | 当月 | 前月 | 当月 | 前月 | 当月 | 前月 | 当月 | 前月 |
| 北海道 | 乳去 | 697 | 707 | 301 | 299 | 221,480 | 227,516 | 736 | 761 |
| | F ₁ 去 | 698 | 1,103 | 321 | 318 | 463,259 | 507,402 | 1,443 | 1,596 |
| | 和去 | 1,016 | 1,793 | 312 | 311 | 765,087 | 796,231 | 2,452 | 2,560 |
| 東北 | 乳去 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | F ₁ 去 | 11 | 12 | 302 | 306 | 459,785 | 456,300 | 1,520 | 1,490 |
| | 和去 | 1,695 | 1,901 | 306 | 306 | 780,034 | 757,111 | 2,551 | 2,473 |
| 関東 | 乳去 | 19 | 11 | 292 | 250 | 247,377 | 195,382 | 848 | 782 |
| | F ₁ 去 | 140 | 135 | 302 | 310 | 451,632 | 486,271 | 1,497 | 1,566 |
| | 和去 | 941 | 780 | 264 | 266 | 759,625 | 727,565 | 2,875 | 2,733 |
| 北陸 | 乳去 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | F ₁ 去 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 和去 | - | 77 | - | 281 | - | 720,822 | - | 2,565 |
| 東海 | 乳去 | 14 | 7 | 287 | 290 | 259,817 | 283,114 | 905 | 976 |
| | F ₁ 去 | 89 | 74 | 299 | 304 | 438,625 | 484,234 | 1,465 | 1,593 |
| | 和去 | 261 | 393 | 248 | 267 | 772,174 | 790,835 | 3,117 | 2,959 |
| 近畿 | 乳去 | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | F ₁ 去 | - | 1 | - | 140 | - | 325,080 | - | 2,322 |
| | 和去 | 184 | 403 | 254 | 255 | 929,263 | 957,737 | 3,659 | 3,757 |
| 中四国 | 乳去 | 66 | 102 | 274 | 279 | 202,810 | 206,746 | 739 | 740 |
| | F ₁ 去 | 215 | 226 | 305 | 309 | 483,407 | 489,455 | 1,582 | 1,586 |
| | 和去 | 632 | 749 | 287 | 290 | 761,138 | 774,775 | 2,656 | 2,669 |
| 九州・沖縄 | 乳去 | 32 | 37 | 284 | 283 | 247,320 | 234,944 | 870 | 830 |
| | F ₁ 去 | 285 | 353 | 317 | 313 | 471,357 | 488,621 | 1,488 | 1,563 |
| | 和去 | 6,211 | 9,525 | 292 | 292 | 815,727 | 810,951 | 2,796 | 2,778 |
| 全国 | 乳去 | 828 | 864 | 298 | 295 | 222,233 | 225,423 | 746 | 764 |
| | F ₁ 去 | 1,438 | 1,904 | 314 | 315 | 465,193 | 498,973 | 1,482 | 1,584 |
| | 和去 | 10,940 | 15,621 | 291 | 293 | 798,385 | 799,763 | 2,744 | 2,730 |

注：(独)農畜産業振興機構の公表データを基に本紙集計、当月は暫定値。価格は消費税込み、重量・金額・単価は加重平均。-は上場がなかったことを示す。関東ブロックは山梨県、長野県、静岡県を含む。

重量ベース 肉類自給率、51%に低下

18年度 年間消費量は2.3%増

農水省がこのほど公表した18年度食料需給表によると、肉類(牛・豚・鶏肉、その他の肉)の重量ベースの自給率は前年度に比べ1.1%低下し、51%となった。15年度から4年連続で1.1%ずつ低下した。需要の高まりを背景に、輸入品の割合が高まっている。

肉類の国内生産量(枝肉換算、以下同じ)は336万6千t(前年度比1.2%増)、輸入量は319万6千t(2.2%増)だった。国内生産量のうち、牛肉は47万6千t(1.1%増)、豚肉は128万2千t(0.8%増)、鶏肉は160万t(1.6%増)。輸入量のうち、牛肉は88万6千t(8.4%増)、豚肉は134万5千t(0.9%減)、鶏肉は91万4千t(1.0%増)だった。

国内生産量と輸入量の合計から輸出量を差し引き、在庫の増減量を考慮した「国内消費仕向量」は、肉類

全体で654万5千t(2.1%増)だった。

畜種別の自給率(国内生産量/国内消費仕向量×100)は、牛肉が前年と同じ36%、豚肉が3年連続1.1%低下の48%、鶏肉が前年と同じ64%となった。

なお、飼料自給率(18年度：1.1%低下の25%)を反映してカロリーベースで計算すると、肉類全体で7%、牛肉は10%、豚肉は6%、鶏肉は8%になる。

肉類の国民1人・1年当たり供給純食料(精肉換算、年間消費量に相当)は、33.5kg(2.3%増)だった。うち牛肉は6.5kg(3.4%増)、豚肉は12.9kg(1.1%増)、鶏肉は13.8kg(2.9%増)と、3畜種とも増えた。

近年、肉類の消費量は増加傾向で推移しているが、国内生産量の伸びが小幅で供給量が不足している。そのため、輸入量が増え、自給率は低下傾向で推移している。

豚枝肉

出荷減の可能性も在庫多く、相場は弱気配に

8月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が561円(前年同月比91%)、中物は541円(93%)となった。前月に比べ、上物は1円下げ、中物は7円上げた。

猛暑の影響で全国的に出荷頭数が鈍ったが、量販店等では輸入品の取り扱いが多い。上・中旬は堅調だったが、下旬には軟調な展開になった。

農水省の肉豚生産出荷予測によると、9月は前年同月を上回る129万5000頭(前年同月比103%、過去5年同月平均比98%)、10月は下回る142万頭(95%、99%)と見込んでいる。

素牛

スモール

乳子牛は高値継続し、和子牛はもちあいか

【乳素牛】8月の乳素牛の全国1頭当たり税込み平均価格(左表、暫定値)は、乳去勢が22万2233円(前年同月比97%)、F₁去勢が46万5193円(105%)となった。前月に比べ、それぞれ3190円、3万3780円下げた。F₁去勢は、北海道や東海で値を下げた。

両品種の枝肉相場は依然堅調に推移していることから、高値が継続すると予想される。

【スモール】8月の全国24市場の1頭当たり税込み平均価格(農畜産業振興機構調べ、暫定値)は、乳雄が10万9114円(前年同月比93%)、F₁(雄雌含む)は28万1821円(111%)となった。

農畜産業振興機構の需給予測によると、9月の輸入量は総量で7万3400t(106%)の見込み。内訳は、冷蔵品が3万1700t(104%)、冷凍品が4万1700t(108%)。国産品と輸入品を合わせた9月末の期末在庫量は22万2500t(133%)と、前年同月を大幅に大きく上回ると予測している。

出荷頭数は、豚コレラや豚伝染性下痢(PED)の発生、残暑の影響で、予測を下回る可能性がある。他方、在庫量が例年になく多く、荷余り感から、需給が緩む見込み。相場は弱気配の展開が予想される。

向こう1ヵ月の東京食肉市場税込み平均枝肉単価は、上物が520~550円、中物は470~500円での相場展開か。

前月に比べ、それぞれ2万5693円、4万302円下げた。暑熱ストレスの懸念などから、引き合いが鈍った。

乳用牛群検定全国協議会公表の「子牛の生産予測情報」によると、19年4月~20年1月の乳用種雄と交雑種雄雌の出生頭数は、ともに前年同期に比べ減少する見込み。品薄傾向が続き、高値の展開が予想される。

【和子牛】8月の和子牛去勢の全国1頭当たり税込み平均価格は、79万8385円(前年同月比99%)となった。前月に比べ1378円下げた。偶数月で開催市場は少なかったが、枝肉相場が振るわず、ほぼ横ばいだった。

和牛枝肉相場は、弱含みの展開が予想されている。当面、子牛の相場はもちあいの展開が続くか。